五日市盆地は，地形上の盆地ではなく，地質上の盆地である。各所で露頭を観察し，クリノメーターに悪戦苦闘の道中であった。段丘・谷中分水嶺・台地などの地形観察では，「地形学・地質学をもっと勉強せねば。」と痛感した。何よりもの収穫は，クリノメーターの使い方を覚えたことではなかろうか。このように，地形が主なテーマではあったが，人文的な観察・聞き取りも，随所で行った。私たちが感激したのは，ウルトラマンにでもでてきそうな巨大変電所。ここでは，クリノメーターを使って，送電線を地形図に書き入れるという，私たちにとっては，離れ業とも思えることを要求された。このような無知な私たちをやさしく御指導下さった式先生に，一同，感謝してやみません。

（式先生指導　　2年　日和田裕子）

猪苗代巡検（１０月４日～７日）

10月４日12時30分，全員例の如くGパンにリュックサックという出立で，磐越西線関都駅に集合した。いよいよ，内藤・三上両先生のもとで猪苗代巡検が始まる。

まず，私達は関都駅から川桁断層を右手に北上し，周辺の土地利用や家屋の形態などを観察した。このあたりの家屋は完全な中門造りではないが，それに類似した形式のものが目についた。また，りっぱな門構えの家が多く，裕福な農家が増加してきているのが観察できた。土地利用については，区画整理された水田が一面広がっていたが，道路沿いのわずかな土地に野菜が栽培されていた。途中農家に立ち寄りお話を伺った。それから観音寺に向った。ここには「荒野邑，宝永６年10月」と彫られた石があり，この付近の地名が，荒野→コウヤ→幸野と変化していったのが理解できる。観音寺から水無川沿いに砂防ダムなどを見ながら川桁駅へ。そして，ここからバスで宿舎へ行った。

第２日めは，標高1,430mの赤埴山登山。絶好の登山日和であった。重い足をひきずり，体力の衰えをひしひしと感じながらも，さすが偏形樹の観察だけは怠らなかった。偏形樹は典型的な片面樹冠であった。これによって風向が推測できる。２時間30分くらいで頂上についた。ここからの眺望は絶景で，猪苗代湖の全景が一望のもとに見渡せた。ここで昼食をとり，沼ノ平へ足を向けた。数千年に形成された構造土が観察されたが，典型的なものは存在しなかった。それから少し登り，爆裂火口に出た。真に迫力があり，爆発時の破壊力の強さをまざまざと見せつけられた思いがした。下りは何度も寿命が縮む思いをしながら，琵琶沢に沿った険しい道をおりてきた。皆，あちこちに傷をつくり，ヘトヘトに疲れたが，どうにか無事下山できた。

第３日めの午前中は町役場でお話を伺った。主に話題となったのは，今年全国的に大きな被害を出した冷害のことであった。品種選定など冷害対策が行われている一方，被害に対する補償も重要な問題となっている。また，猪苗代は「農業と観光の町」というキャッチフレーズをもとに政策を施しているが，観光収入は農業粗収入の３～４倍なのだそうだ。午後は冷害試験地を見学した。多品種の稲が栽培されいろいろな研究がなされていたが，不思議なことに，冷害に関する研究はないということだった。見学を終えると，折悪しく小雨が降り始めたので，タクシーから見祢の大石を垣間見ること

にして帰途についた。

最後の日は，生憎雨にたたられたため，タクシーに分乗し，山内家住宅跡に立ち寄り，その後，猪苗代町の主な観光ルートとなっている野口記念館と会津民族館をじっくり見学した。民族館には，江戸後期に建てられた曲屋中門造りの民家が移築されていて，その中には当時の生活様式をしのばせる品々が陳列されていて興味深かった。

これで，猪苗代巡検の全行程を終了した。いろいろな理由で，計画通りにいかず，カットされたものがいくつかあったのは残念であったが，最後の巡検，それなりに楽しく思い出になるものであった。この巡検での経験が私達の卒論作成にあたって大いに役立つことでしょう。

（内藤・三上両先生指導　　3年　高木　知子）

教材用外国地形図セット　第二集

世界16ヶ国から26面の官製大縮尺(中,小縮尺も一部含む)地形図をあつめ，横浜国立大学学長 野村正七先生の解説書と共にブックケースに入れ,只今　好評発売中です。

定価　28,500円

〔主な内容〕

カナダ・ナイアガラの滝　1：50,000
アメリカ・ケープカナベラル ケネディ宇宙基地 1：24,000
ギリシャ・アテネ歴史都市　1：200,000
イギリス・ジブラルタル(陸けい島の例)　1：50,000
スペイン・ビゴ(リアス式海岸と港) 1：50,000
ベルギー・ブルージュ(中世の自由都市) 1：25,000
西ドイツ・モーゼル運河　1：50,000

●地理書・外国地図の専門輸入…

内外交易株式会社

東京都渋谷区広尾一丁目7番3-107号
■TEL.　東京400－2326(代表)